

C—2 日本人青年女子の肌色の季節の変化について (第2報)

—名古屋地区における—

東京家政大家政 木曾山かね
名古屋女大家政 ○古川智恵子

1. 日本人の肌色を客観的、系統的に把握し、衣服の色との調和について資料を作製することを目的とした。本報ではその一環として、地域的に皮膚の色の状態を把握し、しかも各季節の色の差の考察を試みたいと考えて、名古屋地区に於ける肌色について測定した。

2. 肌色の測定は視感によった。測定時期と室温とは第1報と同様である。湿度は春夏秋冬いずれも約65%で皮膚面の照度450ルクスから500ルクスの間で測定した。被験者の年齢は19歳46人、20歳54人の計100人である。そのうち市内通学者は、75人、近県からの通学生は、25人で化粧をしない皮膚を測定した。

3. 肌色について、総括すると次のようになる。

(1) 各シーズンおよび各測定部位を通じて色相は5.0 YRと、7.5 YRが多く、2.5 YRと10.0 YRは非常に少なかったが、額においては、7.5 YRが比較的少なかった。

(2) 夏の肌色の明度を基準として各シーズンの明度と比べると、気温との関係がみられ、秋には明度が低くなり、冬、春には、明度が高くなることが認められた。